

問い合わせ先 菊池一族プロモーション室 ☎0968(25)7267

13代 菊池武重

(1307・1341)

父・武時の功を受けて肥後守になった武重は、後醍醐天皇の側近として京都に残ることを選びました。一方で、後醍醐天皇から贈られた報酬の多くは公家側に偏っており、大多数の武家は新しい体制に不満を抱いていました。

やがて、倒幕の立役者である足利尊氏が旗頭として持ち上げられ、後醍醐天皇との対立構造ができあがりしました。

菊池千本槍

後醍醐天皇が足利尊氏率いる武家方に差し向けた討伐軍には、新田義貞とともに武重も加わりました。1335(建武2)年11月、両軍は箱根・竹ノ下で激突。殿として奮闘していた武重は、ここで画期的な戦法を発案しました。日本初の集団槍戦法「槍ぶすま」です。千人の兵で3千人の敵兵を倒したといわれ、「菊池千本槍」として後世まで語り継がれました。戦いの後、菊池に帰った武重

は、刀工集団延寿一族に数多くの槍を作らせました。延寿一族は名刀で有名な同田貫鍛冶の祖先といわれています。

菊池家憲

動乱の世を生き残るため、武重は一族の結束をより強いものにしようと「寄合衆内談の事」(菊池家憲)を制定します。天下の動静に関わるような大事については武重が決定権を持つが、通常時の内政については庶家の意見を尊重するという内容で、後に五箇条のご誓文の参考にされた、とも言われています。

聖護寺

武重は禅宗を深く信仰し、鳳儀山聖護寺を建てるための土地を寄進したことで知られています。武重が菊池に招いた大智禅師は、二度も中国へ留学した経験を持つ高僧で、生涯を禅道に捧げた人物です。武重も出家して寂山という法名を名乗り、大智禅師の教えを請いました。「正道にそむくような行いをしない」という武重の信条は、禅宗を通じてより強固なものに成長したようです。

◆絵画連作◆ 幻の都 城下町 菊池

絵・文／橋本以蔵

第一章 武光公の築いた絢爛たる都



其の8 月見殿

菊池本城二ノ丸に当たる場所にあったとされる月見殿。ここで観月の宴や連歌の催しが行われたといえます。城下が遠く立石のはずれの大手門まで見通せて絶景を楽しむことが出来たでしょう。現在は観月楼という見晴らし台が立てられています。



13代 菊池武重

わいふ一番館

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

【ギャラリー】

玉祥寺幽狐句会

出品者: 高木敬二ほか

麦田先生のもと、毎月一回俳句会を行っています。俳画とともに展示いたしますので、ご来館ください。

期間: 1月15日(水)~26日(日)

紫光書道会「紫光書初め展」

出品者: 秋月順子ほか

紫光会員による小型雅仙紙の書初め作品を審査、展示しています。皆さんぜひご来館ください。

期間: 1月28日(火)~2月9日(日)

写真や絵画などを展示しませんか。

わいふ一番館ではギャラリーに作品を出展する人を募集しています。詳しくはわいふ一番館までお尋ねください。

開館時間 午前9時~午後5時

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

菊池観光交流館

問い合わせ先 菊池観光協会 ☎0968(25)0513

第15回夫婦の手紙・絵手紙コンクール作品展

全国各地から寄せられた、ご夫婦の日々の感謝や思いやりに満ちた手紙・絵手紙作品を展示します。



期間: ~令和2年1月5日(日)

写真や絵画などを展示しませんか。

菊池観光交流館では、展示コーナーに作品を出展する人を募集しています。詳しくは菊池観光協会までお尋ねください。

開館時間 午前9時~午後6時

休館日 なし(点検などで臨時的に休館する場合あり)